

評価結果概要表

【評価実施概要】

作成日 平成19年10月 24 日

事業所番号	2771400914	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	医療法人 神明会	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103
事業所名	グループホーム ラ・アケソニア	評価調査日	平成 19 年 10 月 19 日
所在地	大阪府箕面市白島1-19-3 (電話) 072-727-6514	評価確定日	平成 19 年 10 月 31 日

【情報提供票より】(平成19年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日
ユニット数	ユニット 1 利用定員数 9人
職員数	7人 常勤 6人 非常勤 1人 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物の構造	RC 造り 3階建ての(1階部分)
-------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	127,000円	その他の経費(月額)	12,600円	
敷金	(円) 無	有の場合	有	
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 950,000円 償却 年9万円 5ヶ年間のみ	償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,570円	

(4) 利用者の概要(10月 7日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢 平均	85才	最低	73才	最高	90才

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	箕面市立病院 ソラリスクリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

食堂兼居間の大きいガラス窓からは郊外の長閑な風景が展開され、掃除が行き届いた新築の明るい建物内では、経験豊かな職員によって丁寧な介護が行われている。そして、職員達の愛情と工夫によって残存する能力を伸ばすケアが行われている。また、併設の福祉施設の管理者と専門職員によってホームのバックアップと、職員の研修指導が実施されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ご家族とご本人からの聞き取った生活の様子、要望、好み等、日々の様子の記録は出来ていた。また、職員の業務に必要な研修は、法人組織内の責任者により内部の各専門担当者を講師として毎月必要な研修会が法人全体で実施されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム管理者が8月末に退職となったが、残った職員の殆どが設立時からの勤続職員だったので、利用者の喜びの笑顔に励まされ、反省と経験を活かして自己評価に取り組むことが出来た。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は昨年9月から開催されていないが、新担当者により本年11月に再開できるよう準備を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	ご家族アンケートから、多くのご家族が安心している様子が伺え、利用者も新築の明るい室内で行き届いたケアを受けています。家族会から提案された事項については、11月の運営推進会議で検討する予定になっています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議が開催されていないので、地域の自治会をはじめ関連する方々との交流が十分とはいえず、開催を期に更なる交流を進めるよう検討されている。

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人 神明会 が、現在地に設立した老人保健施設で、福祉活動を行っているが、基本理念は「愛」「共感」「奉仕」の心で介護に当たっている。		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は法人の基本理念に基づいて行き届いた介護を行っている。	○	法人基本理念をご家族の皆さんにも分かり易くご理解頂けるように検討し、その上で、ホーム内に掲示してください。
2 地域との支えあい					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	地域の方々にはホームの行事に来て頂いているが、ホーム側から地域への参加体制が整っていないので、交流は出来ていない。運営推進会議再開以後の課題としている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	18年度の評価結果については会議で話し合い、改善指摘のあった事項については、積極的に取り組んでいる。		
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は、昨年9月以降開催していないが、11月に再開するように準備をしている。	○	運営推進会議は介護レベル向上の一環として大切な会議ですので、再開を進めると共に今後の継続についても配慮してください。
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者とは機会あるごとにお会いして、ご指導を受けたり、情報を交換したりしながら、ケアレベルの向上に努めている。		
4 理念を実践するための体制					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	写真を主としたグループホーム新聞を適宜発行している。金銭管理についてのトラブルは無く、体調変化については、その都度、電話で連絡し、定期的にも報告をしている。		
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートの結果では、多くのご家族は安心されている様子、家族会からのご要望については11月に開催予定の運営推進会議の議題とするよう準備中。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	8月に管理者が退職したが、職員の多くは開設当時から勤務者が主だったので、利用者さんの不安は最小限に止められている。	○	職員のチームワークで過渡期をスムーズに移行できるよう話し合いを十分に行ってください。また、利用者さんの笑顔を励みとして介護レベルの向上に努めてください。

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に医師、看護師、専門職が揃っているため、職員のレベルアップ研修を、毎月実施している。		
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	併設の老人保健施設の職員との交流は自然と行われているので、今後は、外部のホーム関係者との交流が、課題となります。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ずはご本人に見学に来て頂き、ご本人が納得と安心した上で、ご家族の皆さんとも話し合っ承諾して頂いている。		
--	-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人は決められた担当職員と共に考え、遊び、世間話をして共感しあえる関係になれるように努めている。		
--	-------	-------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人は決められた担当職員と共に考え、遊び、世間話をして共感しあえる関係になれるように努めている。		
--	-------	---------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	過去に、ご本人がどのような生活を送って来られたのか、毎日の介護の中で聞き出し、またご家族からの聞き取りや、希望を伺ってそれらを基に介護計画の見直しをしている。		
--	-------	----------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日常業務の中で職員間の話し合いやご家族からの意見を参考にしながら、介護計画の見直しが行われている。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の都合やご希望に応じて通院、外出の支援を行っている		
----	----	---------------------------------------------------------------------	----------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	ご本人の以前からのかかりつけ医院への通院を支援している。また、必要なときには職員が同行している。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの居住期間の長期化によって重度化、終末期が想定されるので、なるべく早く、あり方についての方針を作成し、共有するようにしている。	○	法人内で総合的な検討を行ってください。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた話しかけや、対応を、尊厳を損ねることのないように行っている。個人情報の取扱いには守秘義務を守っている。		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所時から一人ひとりの生活のペースを把握し、個々の状況に合わせた生活をしてもらっている。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の統一された炊事場で同じメニューとなっているが、月2回はホーム内だけのリクエストメニューで食事をしている。又、ホーム内の炊事場で準備や片づけ等、適宜に参加してもらっている。		
----	----	-------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回となっているが、状況により適宜、入浴していただけるように、配慮されている。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特性を把握し、役割を持って生活を楽しんでもらっている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している	気候の良いときには、なるべく外出するようにしている。施設敷地内の庭へは、いつでも付き添えに応じられるよう配慮されている。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は正面玄関やドア等には鍵を掛けていない。出掛ける利用者を見付けたら、直ちに職員が付添い、外を一緒に歩くようにしている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じ建物内の老人保健施設と合わせて、一括で計画や訓練が行われているが、ホームだけの訓練も年2回実施している。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事量と水分摂取量のチェックが行われている。好きな食べ物等については、ご家族からも聞き出している。		
----	----	--------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------	--	--

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感のあるカレンダーや壁に貼る作品を、職員と一緒に製作している。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物品を居室に持ち込んでもらっている。写真など気持ちを楽しませるものも飾っている。		